

会 議 録

会 議 名		第 72 回 八王子市ごみゼロ社会推進協議会			
日 時		令和6年(2024年) 10月10日(木)	開始	午後2時 00分	終了 午後3時 50分
場 所		本庁舎 8階 801会議室			
出 席 者	委 員	石井委員、守屋委員、吉田委員、秋間委員、間嶋委員、 平澤委員、矢島委員、佐怒賀委員、嶋田委員、安瀬委員、 伊藤委員、増淵委員、大貫委員 以上 13 名			
	事務局等	小林資源循環部長、木下循環型都市推進専門管理官、堂本ごみ減量対策課長、河内廃棄物対策課長、高田清掃施設整備課長、青木ごみ総合相談センター所長、清水戸吹清掃事業所長、枝根館清掃事業所長、熊澤館クリーンセンター所長 【ごみ減量対策課】白鳥主査、前川主査、森田主任、篠沢主任、日野主任、田村(裕)主任、山木主事、森田専門員 【清掃施設整備課】後藤課長補佐 【戸吹クリーンセンター】黒田課長補佐			
欠 席 者		田野倉委員 以上 1 名			
議 題 等		1.議題 (1)令和5年度 ごみ処理基本計画進捗状況について (2)令和6年度 食品ロス削減月間の取組について (3)ごみ分別アプリの導入について 2.その他			
公開・非公開の別		公開			
傍 聴 人		なし			
配 布 資 料		会議次第 第 72 回ごみゼロ社会推進協議会 席次表 八王子市ごみゼロ社会推進協議会 委員名簿 資料 1-1 令和5年度 ごみ処理基本計画進捗状況について 資料 1-2 令和5年度 前ごみ処理基本計画(H31～R10 年度)進捗状況			

	<p>資料 1-3 令和6年度 現ごみ処理基本計画(R6～R15 年度) 取組予定</p> <p>資料2 令和6年度 食品ロス削減月間の取組について</p> <p>資料3 ごみ分別アプリの導入について</p> <p>木の枝申込制収集について</p> <p>ごみゼロ通信(令和 6 年 10 月 1 日号)</p>
<p>1.議題</p> <p>(1)令和5年度 ごみ処理基本計画を進捗状況について</p> <p>【意見、質疑応答等】</p> <p>委員:容器包装プラスチックを汚れたまま排出してしまっている割合はどれくらいか。</p> <p>市:数字について今はお伝えできないが、多くの方にご協力いただけており、引き続き周知を進めていく。分別アプリというものを始めたのでそちらも利用していく。</p> <p>市:容器包装プラスチックの収集は直営で行っており、極端に分別が悪い場合はその場でのお声がけや、後日清掃指導員が訪問して正しい出し方のご協力をお願いしている。啓発は個々に進めており、市全体に必要なレベルではないと捉えている。</p> <p>委員:お祭りから出るごみはどうか。</p> <p>市:町会ごとに改善に向け対応していただいている。</p> <p>委員:生ごみリサイクルリーダーとはどのようなものか。町会・自治会から選出しているのか。</p> <p>市:生ごみリサイクルリーダーとは、リサイクル推進員とは異なるもので生ごみのリサイクルに積極的に取り組む市民の方を、市で任命しており、今現在12名いる。年間 40 回ほど実施しているダンボールコンポスト講習会の講師をしていただいている。</p> <p>委員:今市内に町会・自治会は 570 ほどあると思うが、全ての団体にリサイクル推進員はいるのか。</p> <p>市:全てではなく、6 割くらいの団体から推薦いただけており、2 名のところもあれば 0 名のところもある。</p> <p>委員:自身の町会ではリサイクル推進員が市の研修会などに参加した後、町会に対して情報共有があまりできていない現状がある。周知するよう働きかけるのが町会・自治会の役割ではないかと思う。</p> <p>委員:ダンボールコンポストの講習会はどこで実施しているのか。</p> <p>市:市民センターやあったかホール、まちの駅八王子 CHITOSEYA で実施している。</p> <p>委員:リサイクル推進員について、私の町会では“美化”の役割と一緒に 5 人で担っている。市に相談したところ 5 名でも問題ないとの回答を得たので、研修会にも 4 人で参加させていただく。意識の高い町会ではないかと思う。</p>	

市：リサイクル推進員の方には色々な情報を提供しているので、町会・自治会で広めていただきさらに問題意識をもっていただけたらと考えている。

委員：町会・自治会に対し、フィードバックできる方を任命する必要があると思う。

委員：570 以上ある町会・自治会の 6 割ほどしかリサイクル推進員がないというのは寂しく感じる。資料 1-2 の“評価”に B が多いので、A にするためにはリサイクル推進員がもっと大勢いないと難しいのではないか。

委員：資料の評価について、「B おおむね順調」が多く、形骸化してしまっているように感じるがどうか。

市：急速に進んだ事業については A を付けることができるが、緩やかに前進しているものについては B をつけており、確かに B が多くなっている。評価についてはどこをベースにするのが重要であるので、見直しながら行っていく。

市：3つ程の事業の評価を施策ごとにまとめて平均をとっているもので、事業単位で見れば A や C のものはあっても、平均をとると B になってしまうことが多い。また担当の自己評価のため、なかなか A をつけづらいというのもある。どの事業も課題があるので、今後取組を進めていく。

委員：収集車両の更新時に、クリーンディーゼル車を導入し、CO₂削減につなげるとあるが、委託業者の車両については市で助成しているのか。

市：現在は基本的に事業費の中に購入費用を見込み運用していただいている。この先、新たな技術を導入した車両が出てきたとするならば、その経費を見込んで発注することとなり、車両も耐用年数があるので、徐々に切り替わっていくことになる。ほかの自治体では電気自動車などを実証実験で取り入れているところもある。今後環境負荷を軽減のため委託事業者への補助制度といったものが出てくれば、積極的に活用し進めていきたいと考えている。

委員：助成がもしあるとしたら、それは東京都からか。

市：市独自はなかなか難しく、現在は東京都から交付金をいただくことが多い。

委員：製品プラスチックの資源化に向けた施策整備について、事業者との意見交換等、事例研究による情報収集とあるが、実際分別するのは市民であるので、市民の意見を吸い上げる機会についてはどのように考えているか。

市：実施にむけた検討の中では、必ず市民の方々の声を伺う予定である。ただ現在は施設の整備について検討中であり、そこを固めてからでないと実施時期が決まらないという段階である。施設をどのようにしていくかという検討を先にしながら、今後状況に応じて、市民の方の声をしっかりと反映していきたいと考えている。

委員：近年の物価上昇による買い控えで食品ロスが減っているのではないか。

市：確実に減っている。物価の上昇に見合うだけ賃金が上がっていないこともあり、市民の皆様は生活防衛のため買うものを選び、買ったものは確実に使い切るという、市の食品ロス啓発で呼びかけていることを実践していただいている。

委員：ごみの量も減っているのか。

市：可燃ごみの量は減っている。

委員：タベスケは、どのように運営しているのか。

市：タベスケは、Web 上にお店の方が出品をし、その出品リストを登録された市民の方が見て、ご購入されたい場合は、予約をしていくという流れになっている。現状出品されたものについては、かなりの数マッチングしており、出品されたらすぐに売れるという状況である。

ただ課題としては、地域、お店の場所や地域のマッチング偏りや、登録店がない地域もあるため、地域性など、様々な観点から、登録店を増やし、ユーザー数も増加させたいと考えている。

委員：タベスケの仕組みについて、知らない人も多くいるので、ユーザー増加を目指すのであれば、地域を巻き込んで PR していくのがよいと思う。

委員：ジモティーやタベスケといったネットを利用するものは、利用したいがネットだから嫌だというご年配の方が結構いる。電話などほかの対応もあれば助かるのだが、これからはなんでもネットの時代であるが、お年寄りにとってはとても不安で負担なため、誰でも利用できるシステムにしてほしい。

市：タベスケについて、利用方法の説明や安心してご利用いただけるものだという周知を進めていく必要があると考えている。今後も市 HP、広報、タウンニュース、SNS で PR を行い、多くの方にご利用いただけるものになるよう取り組んでいく。

委員：大学でごみに関する啓発活動を受けた記憶があまりないのだが、具体的にどのような施策を行っているのか。

市：学生向けには様々な啓発をしており、例えば学生寮でごみの分別に困っている方のところへ清掃事業所の職員が伺い分別の説明をするといった、現場レベルの活動もある。

また、これから依頼する予定だが、大学コンソーシアム八王子の HP 上で、各大学の方向けに、ごみの分別アプリが入りましたという情報発信を予定している。各大学では学生向けのポータルサイトなどで PR して頂けないかと考えている。今後も手法を検討しながら、情報がしっかりと伝わるよう取り組んでいく。

委員：大学コンソーシアム八王子を利用した情報発信はこれからということか。

市：そうである。

市：また、現在、より情報が伝わるよう直接市内の各大学様の生協・学務課等とやりとりをし、学生向けに情報媒体を通じ適正分別やりユースといった周知を図っている。今後それを進化させた取組として大学コンソーシアム八王子のネットワークを通じて進めたいと考えている。

委員：具体的にどんな取組をしているのか。

市：ごみの分別に関する情報誌を作成し電子媒体にしたものやジモティースポットを説明したものをお送りし活用いただいている。

委員：そういったごみに関する情報を学生が見るものなのか。

市：情報発信する際は、入学・卒業シーズンに行くなどといった需要が高まる時期を見極めながら、効果的に行うようにしている。

委員：SNSと紙と両方活用しながらでないと、学生はわざわざSNSでごみに関する情報を見ないと思う。

市：大学に情報を送る際は、職員が直接大学の窓口へ行き依頼し、紙ベースのものもお渡ししている。しかし、出来るだけペーパーレスを進めるために、現代はスマホから情報収集する方が多く若い学生の方も情報を入手しやすいのではないかと、そのような形をとっている。

委員：学生の方はやはりごみに対しほとんど意識していないと思う。

委員：電子ベースだと色々な情報が入ってくるので、100個の情報のうち1つがごみだとしてもあまり見ていないことが多い。学生全体のごみに対する意識もかなり低いと思う。分別についてよく考えず、とりあえず可燃ごみに入れている人もいる。

委員：八王子市が50万人以上の都市でごみの少なさ1位を何度もとったことがあることを知らない人も多い。ごみ減量対策課にその垂れ幕も貼ってあるがあまり見ないので、啓発の仕方を考えてもらいたい。

委員：学園祭などのイベントでごみに関するブースを作りPRするのはどうか。

委員：できると思う。学園祭の時はごみ箱横に担当の学生も立つこともあり、皆きちんと分別をする。そういったところで啓発活動ができればより効果的な周知ができるのではないかと。

委員：大学に市のごみ収集車は行くのか。

市：大学は事業系なので各大学が契約をしている業者が回収している。

委員：“清掃デーの実施に合わせて、市内の全小中学校へ周知チラシを配布”とあるが、それでは家の人にとって子供たちが学校から持って帰る色々なプリントの1枚で自分とは関係ないものと思われてしまうのではないかと。全小中学校という単位ではなく、中学校単位にある青少対(青少年対策地区委員会)という団体がクリーン活動を行っているので、そういった地域に根差した力と一緒に、子どもたちが年に1~2回一斉にごみ袋をもって清掃を行うようなそんな光景を八王子で見たい。環境学習にもなると思う。

委員：うちの町会では年に何回か子ども会が廃品回収を実施し、集まったものを子供たちに分別してもらっている。

委員：中学校を主体とした青少対では年に2~3回か小学校を含めそのエリアの清掃を行い学校で分別をするという活動がある。今問題であるのは、青少対や町会清掃活動、市の清掃デーがあるので、それを2つほどに絞り集中的に行えないかという議論を私共の方で行っている。

(2)令和6年度 食品ロス削減月間の取組について

【意見、質疑応答等】

委員：私の所属する八王子市消費生活啓発推進委員会でも同じように食品ロスに取り組んでおり、講演会を令和6年11月30日に実施する予定である。同じ日にフードライブも行う予定なので、ぜひお越しいただきたい。

委員：市役所本庁舎の食堂の食品ロスはどの程度あるのか。自分のところから削減を進んでやるべきではないか。

市：確認する。

(3)ごみ分別アプリの導入について

【意見、質疑応答等】

委員：設定で“地区設定”とあり、ほかの自治体もこのアプリを利用しているようであるが、前例からどれぐらいの方に利用される予測をしているのか。

市：この“さんあ〜る”のアプリを利用している近隣自治体の例では、約3万7千世帯のうち大体3分の1ぐらいの1万世帯の方が利用されているそうなので、約28万世帯の本市では11万人が目標である。

委員：アプリの運用費用について、保守費用はかからないのか。例えば辞書の追加はできるのか。

市：可能である。市にIDとパスワードが付与されているので、職員がログインし追加・修正することができ、それに関して費用は発生しない。

委員：高齢化社会の中で、どの程度需要があるか疑問がある。高齢者は導入しないと思う。ペーパーレスやデジタル化の時代から必要なのは分かるが、私共の町自連だよりも来年1月号からHPのみで公開することとなった。でも利用者に高齢者が多いため紙でほしいと伝えてくる団体もある。

委員：私は働いているので、朝、アプリよりも冷蔵庫に貼ってあるごみカレンダーを見る方が早いと感じる。便利になるのはいいが、働いている世代であっても紙でほしいというニーズはあると思う。

市：このアプリにはプッシュ通知があり、朝起きるとごみの品目についてお知らせがある。家族で確認もでき、便利なアプリになっているのでぜひ利用していただきたい。高齢化社会で紙は廃止できないものではあるが、様々な仕掛けをし、ごみ減量の意識を高めていきたいと考えている。

委員：周知が必要だと思う。アプリの費用について、高いとの意見もあったが私は安いと思う。システム開発費がなく、初期導入費用だけで八王子市向けにカスタマイズしてくれ、毎月の使用料も安くなっている。

委員：法人だといいが、個人では高い金額であると思う。

委員：導入の際比較検討される中で安いものを選んだのではないか。

委員：八王子市57万人に対しこの費用であれば非常に安いと思う。市LINEのときも発言したが、やるのであれば徹底的に3割ではなく8割ぐらいの導入を目指さな

いと、あまり利用されていない、高齢者に向かないとなりこのアプリが必要でないという判断になってしまうのではないかと。市で導入をさらに推進するのであれば、アプリをダウンロードしていただいた方にごみ袋 10 枚プレゼントするなどはどうか。お徳感に対し消費者の意識は非常に高くなっている。

今アプリをダウンロードしてみたが便利だと思うので、紙のカレンダーが必要な方はここからダウンロードを、どうしても難しい方は市役所へと取りに行くことといったように徹底的に行うべきではないか。

委員：ダウンロードの仕方すら分からない人もいるので、手順を 1 はこれ 2 は…と詳しく掲載すると良いと思う。窓口を用意するのはどうか。

市：このアプリはさくさく動き使いやすく良いものだと考えている。このアプリは令和 6 年 10 月 1 日から運用が始まり、初日約千人、次の日も約千人のダウンロードがあり、若干伸び悩んでいるが着実に増加しているので、状況を見ながら今日頂いた意見を参考に周知を進めていく。

市：費用の面で補足であるが、費用の高いアプリを利用している自治体は、専用自治体のアイコンを作って、カスタマイズをしている。今回八王子市で導入したのは、1 つのプラットフォームで、300 以上もの自治体はそのアプリ登録をしているものであり、同じものを利用しているということだからかなり安価に契約をしている。ただ、金額は安いですが、機能面については、他の高いアプリと比べても遜色ないものになっているので、そこは安心して、ご利用いただきたい。

2.その他

木の枝申込制収集について

市：令和 7 年(2025 年)3 月 31 日に申込制収集を終了する予定である。
従前どおり可燃ごみの日に 2 束 2 袋まで無料で回収する。

委員の改選について

市：11 月 12 日をもって任期満了に伴う委員の改選がある。

次回のごみゼロ社会推進協議会の日程について

市：次回は 2 月 7 日(金)14 時から本庁舎 8 階 801 会議室で実施する。